

第1回うきは市立小・中学校のあり方検討委員会

開催日時	令和7年1月31日（金）13:30～15:30
開催場所	うきは市役所3階大会議室
参加者	麻生委員長、白石副委員長 保護者代表：佐藤委員、佐藤委員、加藤委員 地域代表：江藤委員、石井委員、物部委員、國武委員、松木委員、渡邊委員、佐藤委員、梶原委員 学校長：金子委員、竹並委員、石井委員、古賀委員、松田委員 保育園代表：大隈委員 市議会議員：岩淵委員、高木委員 教職員組合：良永委員 市職員：吉松委員 事務局：樋口教育長、岡村学校教育課長、江藤市民協働推進課長、物部指導主事、石橋教育総務係長、井上事務主査
議事次第	
1. 市長あいさつ 2. 委員紹介 3. うきは市立小・中学校のあり方検討委員会について (1) 小・中学校のあり方検討委員会の位置づけと役割について (2) うきは市立小・中学校のあり方検討委員会設置要綱について 4. 委員長及び副委員長選出 5. 議事 (1) 小・中学校を取り巻く現況について ① うきは市の現況と校区别の小・中学校の人口分布について ② 施設の劣化状況と施設毎の状況について ③ 浮羽町域小・中学校の児童生徒数の現状と推移について 6. 今後のスケジュールについて 7. その他 8. 次回検討委員会開催日	
議事要旨	
1. 市長あいさつ ・先程まで、千年小学校に伺って小学6年生の皆さんと給食を食べながら様々な意見交換を行っていた。皆さん本当に熱心で、具体的な意見や要望を予想以上に頂いた。小学生や中学生が取り巻く環境は、私たちや諸先輩方が小中学生だった頃に比べて様々なものが飛躍的に変化をし、多様な価値観が生まれていると改めて認識した。 ・この検討委員会は、私個人としては、学校教育にとどまらず、これからの向こう20年、30年の浮羽町の今後の町の在り方の大元になると考えている。どのような環境で学び育つのが浮羽町の子ども	

達にとって最も寛容で最適なのかということを本検討委員会でご議論頂きながら、将来の子ども達が誇れる浮羽町をつくるという思いで、皆様の忌憚ないご意見を賜り、より良い学校の在り方についてご提言頂けることを祈念している。 ・本検討委員会へのご出席とともに皆様からの貴重なご意見を頂くこと、また、本検討委員会を通じて他事例の視察等も考えていますので、様々な知見や感覚を広げていただき、是非ともうきは市の子どもたちの将来に資する学校の在り方についてご提言頂くことを重ねてお願いしたい。	
2. うきは市立小・中学校のあり方検討委員会について	
(1) 小・中学校のあり方検討委員会の位置づけと役割について（教育長）	
・教育委員会としては、浮羽中学校の老朽化に伴い、建て替えも含めた検討を行うとともに、浮羽町域の今後の人口推移を踏まえた学校再編についても検討すべきと考えている。 ・市内の全児童生徒数は合併前から減少傾向にあり、特に浮羽町域の山春小学校、大石小学校、御幸小学校の児童数、浮羽中学校の生徒数の減少が大きい。 ・きめ細かな指導ができる等、小規模校の良さは沢山あるが、子ども達は集団の中で多くの友達の様々な考えに触れ、多様な人間関係の中で切磋琢磨しながら社会性を身に付けていく。しかし、学校の小規模化が進むと人間関係が固定化したり、新たな友達が増えなかったりすることから、人間関係の中で新たな考え方や物の見方に出会える機会が少なくなる可能性がある。 ・市内全ての児童・生徒が集団の中で多様な考えに触れ、集団の中で多様な考えに触れ、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、今後予測困難な社会を生き抜く子どもに必要な資質・能力を伸ばしていく必要があると考えている。 ・そのためには、人間関係の固定化や序列化が生じないように、安心・安全が保たれた中で、一定規模の集団を確保した学びの環境が必要だろうと考えており、保護者や地域住民の皆様と丁寧な議論を行いながら、浮羽中学校だけではなく、浮羽町域の魅力ある教育環境はどのようにあるべきかをご協議いただきながら進めていきたいと考えている。 ・そこで、今後の学校の建て替えや再編等に関する様々なご意見を広く伺うために、本日実施する「うきは市立小中学校のあり方検討委員会」を設置したところである。本日の検討委員会では、浮羽町域の小・中学校の現状や学校施設の劣化状況などの協議を進めていきたい。	
3. 小・中学校を取り巻く現況について	
(1) うきは市の現況と校区别の小・中学校の人口分布について	
市議会議員 A 委員	資料 4 の P3 や P4 で示されている現況や将来の人口について、出典資料の年次に違いがあるが整合は図れているか。 →事務局：P3 の人口将来展望については「うきは市人口ビジョン」、P4 の小中学校の児童生徒数については、毎年 5 月 1 日現在（学校基本調査）の数値である。小中学校の児童生徒数については、数値を再度精査して必要に応じて修正版を次回提示する。
市議会議員 B 委員	P3 について、「うきは市人口ビジョン」の将来人口については、かなり希望的な数値との認識であるため、現実的な数値として、RESAS（地域経済分析システム）を基に「人口問題研究所の将来予測人口」も併せて整理するべき。 →事務局：上記について追加整理する。

(2) 施設の劣化状況と施設毎の状況について	
委員長	資料5のP5の劣化状況評価表について、御幸小学校の北校舎は「C」評価となっているが、近年大規模改造工事が完了しているため「A」評価に変わっているという認識で良いか。 →事務局：ご認識のとおり。
市議会議員 A委員	資料5のP5に示されている劣化状況評価について、最新の状況を踏まえて更新して欲しい。 →事務局：個別施設計画の改定はできないが、本事務局にて独自に最新情報に更新して本委員会資料として提示する。
保護者代表 C委員	浸水想定区域等のハザードエリアに入っている小中学校はないか。 →事務局：全ての小中学校が浸水想定区域に入っているが、堅牢な建物であることから、2階以上への垂直避難を想定している。
(3) 浮羽町域小・中学校の児童生徒数の現状と推移について	
地域代表 D委員	資料6のP6に示される浮羽中学校1年生の生徒数について、令和6年度(75名)から令和7年度(116名)にかけて極端に増加しているのはなぜか。 →事務局：住民基本台帳の登録された人数を示しているものである。
教職員組合 E委員	資料6のP10に示される将来人口推計について、なぜ現時点(2024年度)ではなく2020年度を基準としているのか。現在(2024年度)を基準として推計すべきではないか。 →事務局：独自推計に使用している国立社会保障・人口問題研究所(社人研)の将来推計人口の基準年が2020年度であるため。データの制約上、基準年は2020年度としたい。また、事務局独自で推計した小中学校の生徒数については、社人研の0～14歳の将来推定人口を基に算出していることにも留意されたい。
4. 今後のスケジュールについて	
市議会議員 B委員	検討委員会の設置要綱の中で、検討部会の設置も位置付けられているが、部会はどのようなスケジュールでの開催を考えているのか。 →事務局：本委員会とは別に必要に応じて適宜開催していく予定。
市議会議員 A委員	各回の検討委員会について概ねの協議項目・内容を提示してほしい。 →事務局：今後の委員会での議論によって、その後の協議事項が決まっていくと考えており長期的な協議事項の整理は難しいが、次回委員会では、第3回および第4回の協議事項について提示する。
市議会議員 B委員	第2回検討委員会にて、各小中学校のランニングコストについて提示頂きたい。 →事務局：承知した。

以上